

# ゆぎょうじ 遊行寺だより

ホームページでも  
配信しています

厳しかったこの冬も背中を見せようとしています。

今月は節分追儺式を厳修いたします。例年通り法要後には景品付きの豆まきも行われますので是非ご参加ください。また、特別公開される巨大涅槃図も必見です！

## ◆ 今月の行事予定

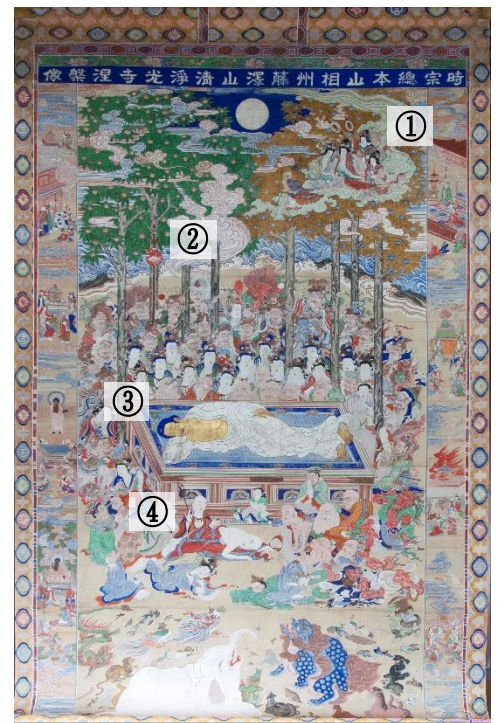
- **節分追儺式**【3日（金）午後1時半・3時】  
豆まきには、各種景品が当たる券が入っております。
- **写経会**【5日（日）13時】  
詳細はホームページ、もしくは写経会のご案内をご覧ください。受付は12時半からです。  
終了時間は自由で、どなたでもご参加いただけます。
- **涅槃会**【15日（水）午前6時 朝勤行後】  
涅槃図の本堂安置期間は  
10日（金）～16日（木）午後3時頃までです。
- **月例法話会**【23日（木）午後2時より】  
信徒会館にて行い、参加は自由です。  
当月講師：時宗布教伝道研究所  
東京都青梅市 正福寺 飯田彰 師

## ◆ 今月の催事予定

- **骨董市** 【3、5、19日】  
毎月第1日曜日…<sup>のみ</sup>蚤の市  
〈お問合わせ TEL:090-4416-2168(石田)〉  
毎月第3日曜日…ボロ市  
〈お問合わせ TEL:090-2660-6935(中島)〉  
\* 午前7時より午後4時まで(雨天中止)
- **野菜市** 【1, 8, 15, 22日】  
毎週水曜日 午前中出店・雨天中止

### ～ 涅槃図ちよこつと解説 ～

- ① **マヤ夫人(まやぶにん)**  
お釈迦様のお母様で、お釈迦様の死に際し天より駆けつけられます。
- ② **沙羅の木(さらのき)**  
4本が繁り、4本が枯れているのはお釈迦様の肉体は消えても、教えは消えないことを表します。
- ③ **お釈迦様**  
頭が北、顔は西向きです。現在亡くなれた方を北枕にするのは、せめて最後は同じお姿という意味合いです。
- ④ **地藏菩薩様**  
弥勒菩薩様がこの世に下りてこられるまでの間、現世の人々を救済することをお釈迦様より依頼されます。



「釈迦涅槃図 — 清浄光寺（遊行寺）蔵」

### \* 遊行寺宝物館

特別展『遊行寺の什宝』[13日まで]

・開館日：毎週月・土・日曜日・祝日

・入館料：500円（小・中学生300円）

## 無常と“今”

2月15日はお釈迦さまが涅槃に入られたことを偲ぶ「涅槃会」が全国的に行われます。遊行寺でも涅槃図をかかげ、往生礼讃の一つである日没礼讃にちもつを読誦し法要を勤めます。

涅槃とは煩悩を完全に滅した深い瞑想状態のことをいいます。日本では涅槃＝死と考えられることが多く、本来とは違った意味が定着してしまっています。

さて、お釈迦さまは入滅に際し、次のような言葉を告げられました。

さあ、修行僧たちよ。おまえたちに告げよう、『もろもろの事象は過ぎ去るものである。怠ることなく修行を完成しなさい』と。

(大パリニッバーナ経、中村元『ゴータマ・ブッタⅡ』)

このように弟子たちへ激励の言葉を残すとともに、諸行無常しよぎようむじょうの教えを改めて説いたのち入滅されたのです。

仏教で最も重要な教えの一つである「諸行無常」。『平家物語』の冒頭の一節「祇園精舎ぎおんしやうじゃの鐘の聲 諸行無常の響きあり・・・」で日本人にもなじみ深い教えでしょう。世の中のすべてのものは変化し、不変のものはない、というこの真理は、身近なところでも感じることができます。例えば今の状態がずっと続くものだど錯覚している人は、体の老いや病気、死や別れなどの変化に直面した時、大きな苦しみを生じます。無常であることを知っていても苦しみをすべて消すことは難しいとは思いますが、それが軽減されることもまた確かでしょう。

そして無常を知ればこそ、このひと時ひと時を大切にし、有意義に過ごせるのだと思います。

今できる限りの最善を努め、ご先祖様から受け継いできた貴重な人生を全うしたいものです

合掌

facebook

フェイスブックでも遊行寺の様子や情報を配信しています。最新記事をお読みいただけますので、ぜひ“いいね！”してください♪

時宗総本山

〒251-0001 神奈川県藤沢市西富1-8-1

遊行寺

TEL:0466(22)2063 FAX:0466(23)8243

ホームページ: <http://www.jishu.or.jp>

宗祖の

## 今月のおことば

身をかん観かんずれば水の泡  
消きえぬる後のちは人もなし  
命いのちをおもへば月の影  
出入いり息いきにぞとどまらぬ

『別願和讃』

### ～一遍上人のおこころ～

人間とは水の泡のようであり、消えてしまえば何も残らないはかない存在である。命は水に映った月のように頼りないものであり、吸っては吐く一息一息も常に連続しているが、いつ止まるか分からず永遠不変ではないのである。

